

安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。**
- 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。**
- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

- ### 警告
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
 - 交流 100V 以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をこなうこと
火災などの原因になります

- ### 注意
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
 - レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付け
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
 - 自然排気型のストープを使用するときは、空気の入口(給気口)により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

- ### 注意
- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
 - 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
 - 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをすることがあります
 - 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
 - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをすることがあります
 - 部品の取り付けは、確実にすること
落下によりけがをすることがあります

取り付け上のお願い

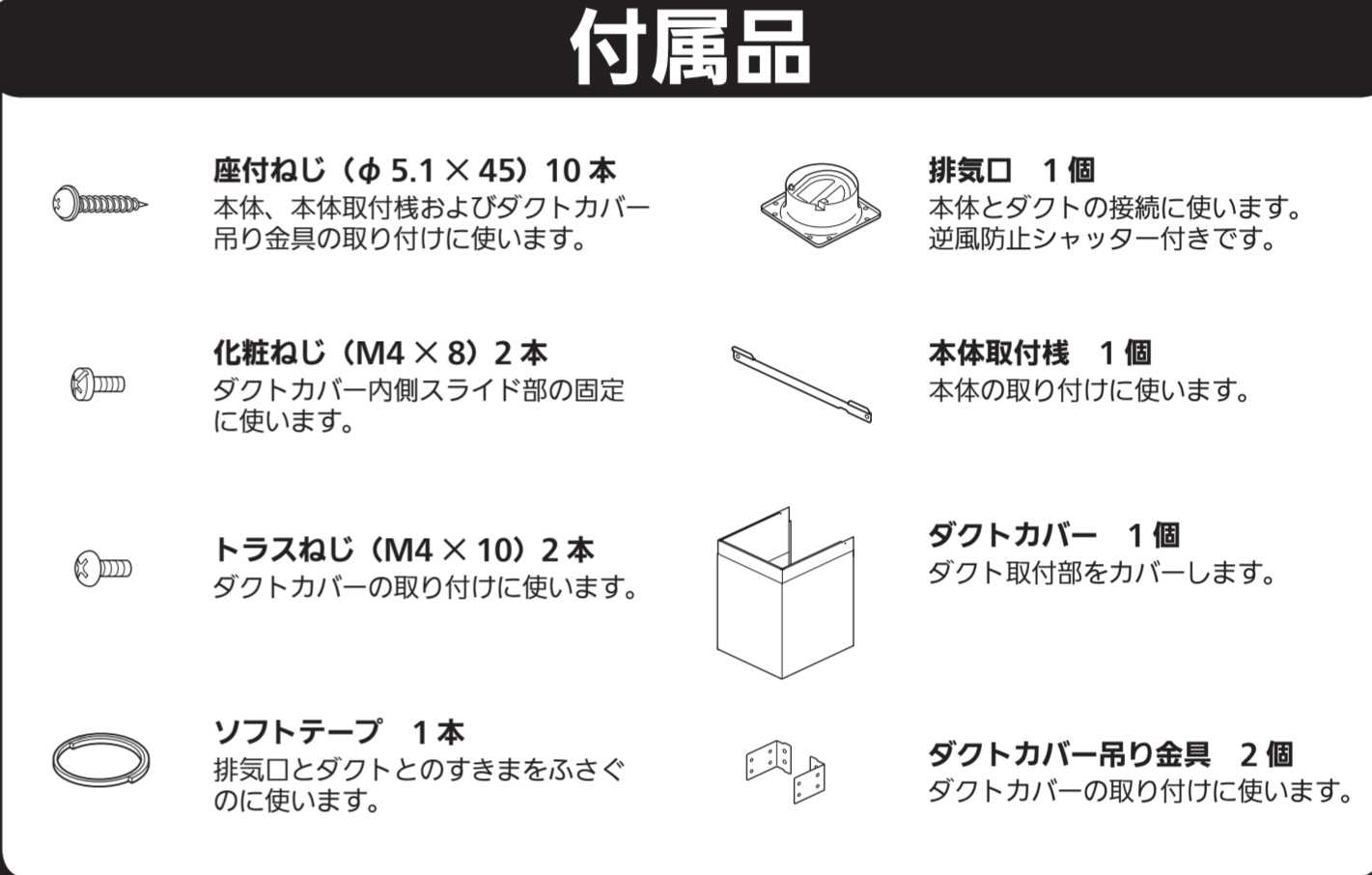
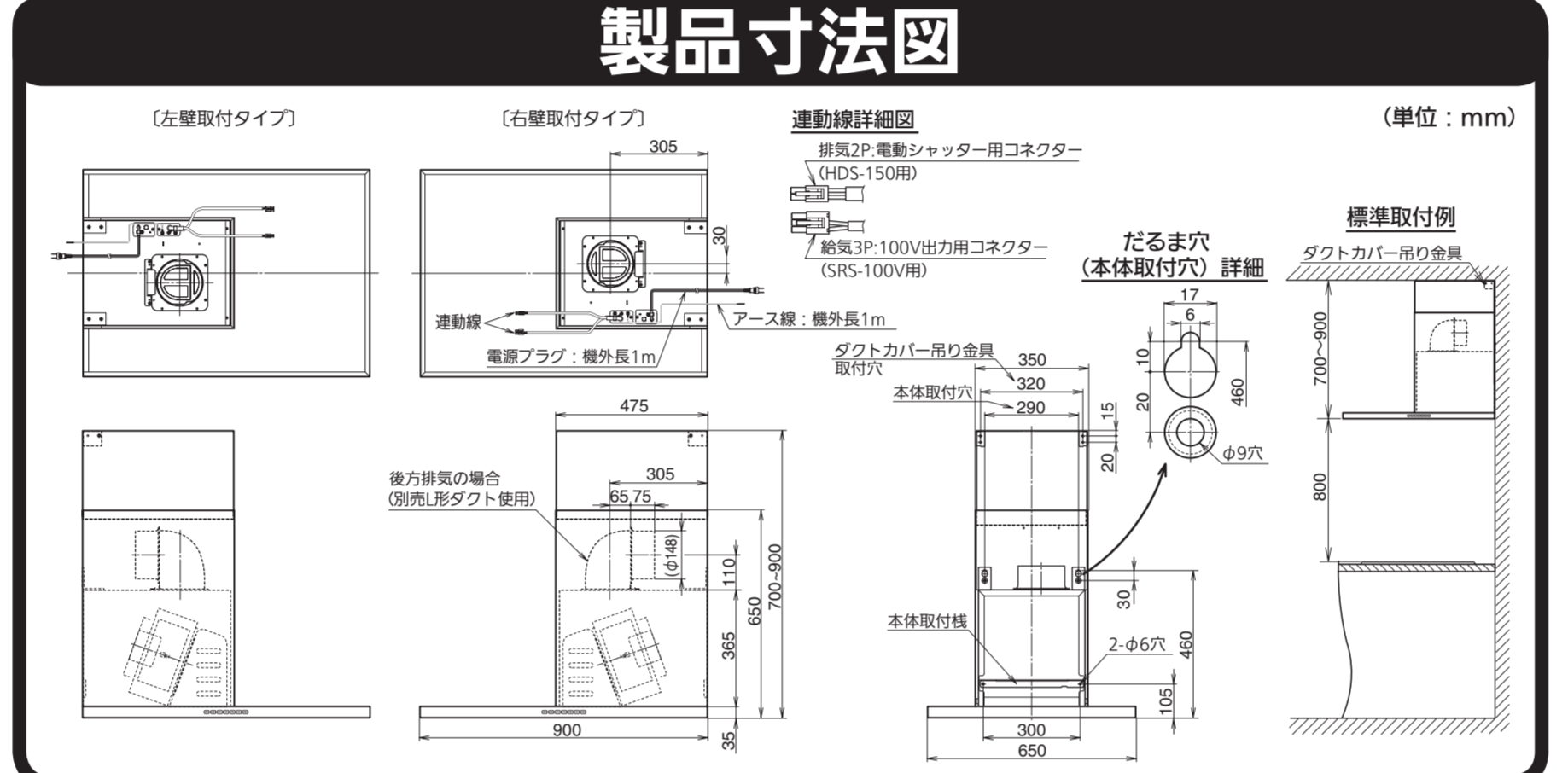
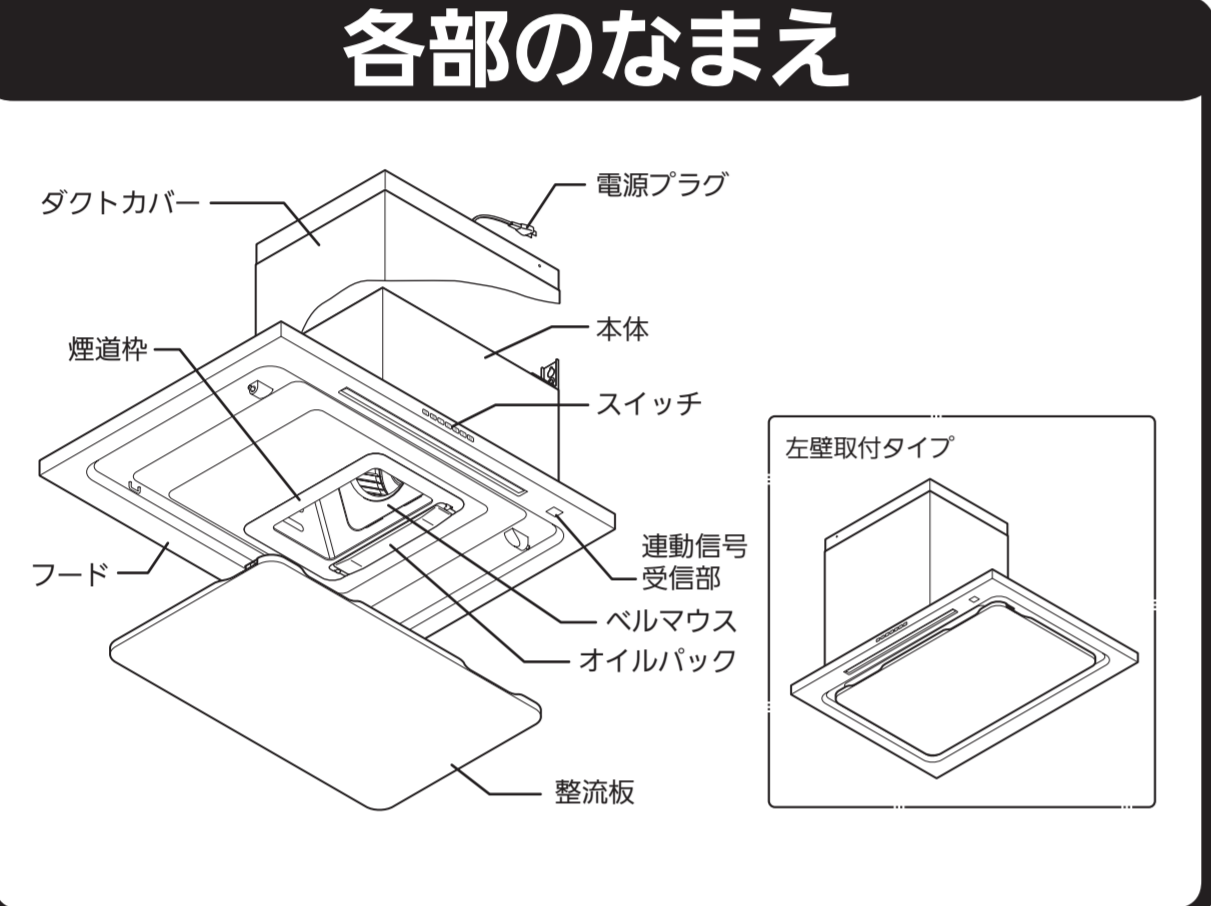
- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - ・大工工事(設置のための下地工事等)
 - ・配線工事(コンセントの設置、コンセント・コネクタ利用以外の配線接続等)
 - ・管工事(ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等)
 流通業者(販売店)を通じて組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
 - ・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 壁外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの透過抵抗は400m²/h 時 50Pa以下のものでご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に曲出したダクトは排気効果をいじり下ろさせたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

取り付け前の調査と準備

- ### 警告
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
 - 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をこなうこと
火災などの原因になります
 - レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上確保し、不燃材料を使用して火災などの原因にならない
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください
 - レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラス網など)と接触しないよう取り付け
漏電した場合、発火するおそれがあります

- ### 注意
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
 - 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
 - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをすることがあります
- 1 取付部の強度確認
製品を支える強さが必要です。 **製品質量 30kg**
- 板厚が20mm未満の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
 - 板厚が20mm以上の場合には補強板の必要はありません。

- ### 注意
- コンクリート、タイル壁の場合
 - あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。
 - 壁壁の場合
 - 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。
 - 2 別売部品の準備
設置工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。
 - 3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面からレンジフードの下まで80cmです。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となります。
 - 4 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相100V)コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器15A 125Vをご使用ください。



取り付けかた

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります

手袋を確認します。

梱包箱から排気口、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

お願い

- 保護用のクッション材と固定テープはキズ、破損防止のため、「7. ダクトカバーの取り付け」まではずさないでください。(図1-1)
- 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

2. 排気方向の決定

警告

- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をこなうこと
火災などの原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付け
漏電した場合、発火するおそれがあります
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上確保し、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署にお問い合わせください

注意

- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

3. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下により、けがをすることがあります
- 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをすることがあります

お願い

- レンジフードの前および左右方向の水平を確実にだしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理部に落下することがあります。
- キッチンパネルの上層部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下により、けがをすることがあります
- 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをすることがあります

お願い

- レンジフードの前および左右方向の水平を確実にだしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理部に落下することがあります。
- キッチンパネルの上層部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

3. 排気用部品の準備

※「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。

■ 上方排気の場合(図3-1)

- 1) 排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
- 2) 本体に付いている取付ねじ2本を差込み、付属品の排気口を差込み、取付ねじで取り付けます。
※取付方向は右図を参照してください。
※取付ねじ近傍のねじは取りはずさないでください。

■ 後方排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)(図3-2)

- 1) 排気口に付属品のソフトテープを貼り、L形ダクトに取り付けます。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。
排気口は、L形ダクトに付属している取付ねじ(M4×8)4本でL形ダクトに取り付けてください。
※ 本体への取り付けは、本体の取り付け後(おこないます)。(図5-2)
- 2) シャッターの開閉方向を確認してください。

4. 本体の取り付け

- 1 だるま穴(取付ねじ)をねじ込みます。(図4-1)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。
- 2 本体取付枠を取り付けます。(図4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付枠の取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)2本で本体取付枠を固定します。

5. ダクトと排気用部品の接続

お願い

- ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピングねじを使用範囲以内に固定してください。(図5-1)

■ 上方排気の場合

図5-1

ドリリングタッピングねじ
45mm以上
シャッター

図5-2

排気口

■ 後方排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)

図5-3

排気口

図5-4

ダクト

排気口

2. ダクトカバー吊り金具を取り付けます。(図7-2)

ダクトカバー吊り金具を図のように付属品の座付ねじ(φ5.1×45)4本で取り付けます。
※レンジフードのセンターに合わせて注意しながら取り付けしてください。

3. ダクトカバーを取り付けます。(図7-3)

ダクトカバーを壁際まで持っていき、引掛けねじの手前までフードの溝に滑り込ませながら、引掛けねじを切り欠きにはめ込みます。

5. ダクトと排気用部品の接続

■ 上方排気の場合

図5-1

ドリリングタッピングねじ
45mm以上
シャッター

図5-2

排気口

■ 後方排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)

図5-3

排気口

図5-4

ダクト

排気口

4. 整流板をはずします。

※保護用のクッション材をはずしてください。

- 1) 整流板を両手で支え、少し押し上げるようにして整流板の左右にあるストッパーを押します。(図7-4)
- 2) 整流板を両手で支えながら、下へゆっくりおろします。(図7-5)
- 3) 整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊り金具から整流板引掛け金具をはずします。(図7-5)
- ※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

3. 排気用部品の準備

■ 上方排気の場合(図3-1)

- 1) 排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。
- 2) 本体に付いている取付ねじ2本を差込み、付属品の排気口を差込み、取付ねじで取り付けます。
※取付方向は右図を参照してください。
※取付ねじ近傍のねじは取りはずさないでください。

■ 後方排気の場合(別売のL形ダクトを使用する場合)(図3-2)

- 1) 排気口に付属品のソフトテープを貼り、L形ダクトに取り付けます。
取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。
排気口は、L形ダクトに付属している取付ねじ(M4×8)4本でL形ダクトに取り付けてください。
※ 本体への取り付けは、本体の取り付け後(おこないます)。(図5-2)
- 2) シャッターの開閉方向を確認してください。

4. 本体の取り付け

- 1 だるま穴(取付ねじ)をねじ込みます。(図4-1)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。
- 2 本体取付枠を取り付けます。(図4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付枠の取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)2本で本体取付枠を固定します。

4. 本体の取り付け

- 1 だるま穴(取付ねじ)をねじ込みます。(図4-1)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置(左右各1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。
- 2 本体取付枠を取り付けます。(図4-2)
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付枠の取付位置に付属品の座付ねじ(φ5.1×45)2本で本体取付枠を固定します。

6. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- 交流 100V 以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

- 1) アース(D 接地工事)を行います。
- 2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い

- 電源は専用のコンセント(2極差込接続器15A、125V)およびブレーカーを付けてください。
- 「8. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮し、右図の斜線範囲内に設置してください(図6-1)。

5. オイルバックをはずします。(図7-6)

※オイルバックを固定しているテープをはずします。
オイルバックの両端を持って矢印の方向にスライドさせ、ツメからはずします。

6. 煙道枠をはずします。(図7-7)

- 1) 煙道枠を固定している2ヶ所のねじをゆるめず(ねじははずしません)。
- 2) ゆるめたねじ側をゆくりと下におろし、2ヶ所のツメをはずします。

7. ダクトカバーの取り付け

- 1 取付位置を確認します。
製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊り金具の取付位置を確認します。(図7-1)

7. ダクトカバーの取り付け

- 1) ダクトカバー内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ(M4×8)2本でダクトカバー吊り金具に固定します。(図7-9)
- 2) ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ(M4×8)2本でダクトカバー吊り金具に固定します。(図7-9)

8. 煙道枠、オイルバック、整流板を取り付けます。

煙道枠、オイルバック、および整流板を、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

取り付けかたは裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

原寸大型紙 (寸法単位は mm)

※表面は取付説明書になっています。よくお読みになり正しく取り付けをおこなってください。

取扱説明書・取付説明書は必ず使用されるお客様にお渡しください。

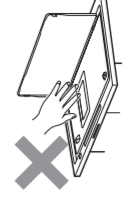
お願い
この型紙は温度の影響で2~3mm 誤差が生ずることがあります。寸法をお確かめの上で使用ください。

取り付けかた (つぎ)

8. 試運転

⚠ 注意

- 運転中は、指や物を絶対に入らないこと
機械停止
けかをすおそれおのます



- 分電盤のアレキサーカーを「I」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
- スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各運転側の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常や騒動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事で発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はしりした保護用のラップシートをもの状態に取り付けてください。

9. お客様への説明

- 取扱説明書による機器の取り付け説明をご覧ください。
- 取扱説明書と併し、この取付説明書をお客様にお渡しください。

【製造元】 **富士工業株式会社**
本社・営業部 〒252-0206
相模原市中央区淵野辺 2丁目 1-9
TEL 042(768)3754 (営業部)

